株式会社きららホールディングス
きらら医療福祉アカデミー
介護職員初任者研修（通信）カリキュラム

【研修科目毎の時間数】
本研修は、科目ごとに次の時間数で実施される。

科 目 名		通信課程	総時間
介護・福祉サービスの理解			
	序章　　介護の職務の理解	—	６時間
	第１章　介護における尊厳の保持・自立支援	7.5 時間	９時間
	第２章　介護の基本	3.0 時間	６時間
	第３章　介護・福祉サービスの理解と医療との連携	7.5 時間	９時間
コミュニケーション技術と老化・認知症・障害の理解			
	第１章　介護におけるコミュニケーション技術	3.0 時間	６時間
	第２章　老化の理解	3.0 時間	６時間
	第３章　認知症の理解	3.0 時間	６時間
	第４章　障害の理解	1.5 時間	３時間
こころとからだのしくみ生活支援技術			
	第１章　こころとからだの基礎知識	12.0 時間	75 時間
	第２章　生活支援と住環境整備		
	第３章　こころとからだのしくみと自立に向けた介護		
	第４章　ターミナルケア		
	第５章　生活支援技術演習		
振り返り		—	４時間
修了試験			１時間
合計		40.5 時間	131 時間

シラバス　（介護職員初任者研修）

職務の理解

目 的	○研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。

指導の視点および展開例
●研修課程全体（１３０時間以上）の構成と各研修項目（１０項目）相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ●視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、できる限り具体的に理解させる。
修了時の評価ポイント
修了評価は無し
内　　容
①　多様なサービスの理解 ○介護保険サービス（居宅、施設）、○介護保険外サービス ②　介護職の仕事内容や働く現場の理解 ○居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ○居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ （視聴覚教材の活用、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等） ○ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携

シラバス　（介護職員初任者研修）

介護における尊厳の保持・自立支援

目 的	○介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するに当たっての、基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。

指導の視点および展開例

●具体的な事例を複数示し、利用者及びその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違いや、自立という概念に対する気づきを促す。

●具体的な事例を複数示し、利用者の持っている能力を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。

●利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。

●虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。

修了時の評価ポイント

① 介護の目標や展開について、尊厳の保持、ＱＯＬ、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる

② 虐待の定義、身体拘束及びサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。

内　　容

① 人権と尊厳を支える介護

◎人権と尊厳の保持

○個人としての尊重、○アドボカシー、○エンパワメントの視点、○「役割」の実感

○尊厳のある暮らし、○利用者のプライバシーの保護

◎ＩＣＦ

・介護分野におけるＩＣＦ

◎ＱＯＬ

○QOL の考え方、○生活の質

◎ノーマライゼーション

・ノーマライゼーションの考え方

◎虐待防止・身体拘束禁止

○身体拘束禁止、○高齢者虐待防止法、○高齢者の養護者支援

◎個人の権利を守る制度の概要

○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業

② 自立に向けた介護

◎自立支援

○自立・自律支援、○残存能力の活用、○動機と欲求、○意欲を高める支援、○個別性／個別ケア

○重度化防止

◎介護予防

○介護予防の考え方

シラバス　（介護職員初任者研修）

介護の基本

目 的	○介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 ○介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。

指導の視点および展開例

●可能なかぎり具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。

●介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人で対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるよう促す。

修了時の評価ポイント

①介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。

②介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。

③介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。

④生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。

⑤介護職に起こりやすい健康障害や受けやすいｽﾄﾚｽ、またそれらに対する健康管理、ｽﾄﾚｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄのあり方、留意点等を列挙できる。

内　　容

① 介護職の役割、専門性と多職種との連携

◎介護環境の特徴

　○訪問介護と施設介護サービスの違い、○地域包括ケアの方向性

◎介護の専門性

　○重度化防止・遅延化の視点、○利用者主体の支援姿勢、○自立した生活を支えるための援助

　○根拠のある介護、○チームケアの重要性、○事業所内のチーム、○多職種から成るチーム

◎介護に関わる職種

　○異なる専門性を持つ多職種の理解、○介護支援専門員、○サービス提供責任者

　○看護師等とチームとなり利用者を支える意味、○互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供

　○チームケアにおける役割分担

② 介護従事者の職業倫理

◎職業倫理

　○専門職の倫理の意義、○介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）、○介護職としての社会的責任

　○プライバシーの保護・尊重

③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント

◎介護労働における安全の確保

　○事故に結びつく要因を探り対応していく技術、○リスクとハザード

　○リスクマネジメントと危機管理の違い、○ISO/IEC ガイド 51

◎事故予防

　○不安全状態と不安全行動、○危険感受性、○高齢者の特性、○作業環境管理と作業管理および健康管理

◎安全対策

　○リスクアセスメントとリスクマネジメント

◎感染症対策

〇感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）、〇「感染」に対する正しい知識

④ 介護職員の安全衛生

◎介護職員のこころの健康管理

〇ストレッサーとストレス反応、〇メンタルヘルス、〇「労働者の心の健康の保持増進のための指針」

◎介護職員のからだの健康管理

〇腰痛、〇腰痛の予防のための労働衛生管理

シラバス　（介護職員初任者研修）

老化の理解

目 的	○加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づく。 ○加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。

指導の視点および展開例

●高齢者に多い心身の変化、疾病の症状について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明する。
●介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。

修了時の評価ポイント

① 加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。
② 高齢者に多い疾病の種類とその症状、特徴、治療・生活上の留意点及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。

内　　容

① 老化に伴うこころとからだの変化と日常
◎老年期の発達と心身の変化の特徴
　○防衛反応（反射）の変化、○喪失体験、○平均寿命と平均余命の違い、○老化の特徴
　○老化による変化とその観察ポイント、○流動性知能因子と結晶性知能因子の特徴
　○老年期における知恵を支える熟達性
◎老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響
　○身体的機能の変化と日常生活への影響、○咀嚼(そしゃく)機能の低下、○筋・骨・関節の変化
　○体温維持機能の変化、○精神的機能の変化と日常生活への影響
　○国民生活基礎調査の有訴者率、通院者率からわかる高齢者の健康状態
　○身体的機能の変化と日常生活への影響
② 高齢者と健康
◎高齢者と健康
　○生活習慣病への対策として「健康日本 21」策定、○健康増進法の施行、○生活習慣病と死因の関係
◎高齢者の疾病と生活上の留意点
　○骨折、○筋力の低下と動き・姿勢の変化、○関節痛
◎高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点
　○循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）、○循環器障害の危険因子と対策、
　○代表的な生活習慣病である高血圧症の定義、分類
　○心疾患の種類、危険因子、脳血管疾患の種類、原因、○糖尿病の原因
　○老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥(しょうそう)感を背景に、「訴え」の多さが全前面に出る、うつ病性仮性認知症）
　○誤嚥(ごえん)性(せい)肺炎(はいえん)、○病状の小さな変化に気付く視点
　○高齢者は感染症にかかりやすい

シラバス　（介護職員初任者研修）

認知症の理解

目 的	○介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解する。

指導の視点および展開例

●認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。
●複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。

修了時の評価ポイント

①認知症ケアの理念や、利用者中心というケアの考え方について概説できる。
②健康な高齢者の「もの忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。
③認知症の中核症状と行動・心理症状（ＢＰＳＤ）等の基本的特性及びそれに影響する要因を列挙できる。
④認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方及び介護の原則について列挙できる。
⑤若年性認知症の特徴についても列挙できる。
⑥認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、生活不活発病予防について概説できる。
⑦認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。
⑧認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。
⑨家族の気持ちや家族が受けやすいストレスについて列挙できる。

内　　容

① 認知症を取り巻く状況
◎認知症ケアの理念
　○パーソン・センタード・ケア、○認知症ケアの視点（できることに着目する）
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理
◎認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理
　○認知症の定義、○物忘れとの違い、○せん妄の症状、○仮性認知症（うつ病性仮性認知症）の特徴、認知症評価スケール、○健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）、○治療、○薬物療法
　○認知症に使用される薬
◎認知症による障害
　○認知症の原因疾患であるアルツハイマー病、脳血管疾患、レビー小体病、前頭側頭葉変性症（ピック病）
◎健康管理
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活
◎中核症状
　○認知症の中核症状である記憶障害、認知障害

◎行動・心理症状

〇認知症の行動・心理症状（BPSD)、〇BPSD の要因、主な症状

◎認知症の利用者への対応

〇認知症という病気の理解、〇ケアの場を小さくする、〇認知症の人のケアマネジメントセンター方式

〇日常生活の把握と介護のあり方

④ 家族への支援

◎家族への支援

〇認知症の受容過程での援助、〇介護負担の軽減（レスパイトケア）

シラバス　（介護職員初任者研修）

障害の理解

目 的	○障害の概念とＩＣＦ、障害者福祉の基本的な考え方について理解する。 ○障がい者の介護における基本的な考え方について理解している。

指導の視点および展開例

●介護において障害の概念とＩＣＦを理解しておくことの必要性の理解を促す。
●高齢者介護との違いを念頭に置きながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。
●家族のストレスやレスパイトケアなどについてグループワークを行う。

修了時の評価ポイント

①障害の概念とＩＣＦについて概説できる。
②各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。
③障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

内　　容

① 障害の基礎的理解
◎障害の概念とＩＣＦ
　○ICF の分類と医学的分類、○ICF の考え方
◎障害の概念
　○障害者基本法と身体障害者福祉法における障害者の定義、○障害等級と身体障害者手帳
◎ICF の考え方
　○WHO が定めた国際生活機能分類、○身体機能・身体構造、活動、参加の３パターン
　○環境因子、個人因子による影響、○一人ひとりに合った支援の重要性
◎障害者福祉の基本理念
　○ノーマライゼーションの理念
　○障害者福祉の基本理念である個人の尊重、インクルージョン、QOL の向上
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識
◎視覚障害
　○生活に必要な全情報量の 80%は視覚から、○視覚障害の種類と症状
◎聴覚・平衡機能障害
　○伝音性難聴と感音性難聴の違い、○三半規管が障害される平衡機能障害、○口話法の留意点
◎音声・言語・咀嚼機能障害
　○音声・言語・咀嚼機能障害の種類、○子どもの構音障害、○成人の構音障害
◎肢体不自由
　○肢体不自由の種類と特徴、○脳性まひの定義
◎内部障害
　○内部障害のストレス、○内部障害の種類
◎障害の受容

〇障害受容から社会復帰へ
◎知的障害
〇療育手帳の交付、〇知的障害の定義
◎精神障害
〇統合失調症の陰性症状と陽性症状、〇アルコール依存症の治療
◎高次脳機能障害
〇精神面でのケアの必要性
◎発達障害
〇発達障害の定義と特徴
③ 家族の心理の理解
◎家族の心理
〇障害の理解・障害の受容支援、〇障害受容における段階説、慢性的悲哀説、螺旋型モデル
◎家族への支援
〇多機関による連携の重要性、〇親の会などの社会資源の把握

シラバス　（介護職員初任者研修）

こころとからだのしくみ生活支援技術

目 的	○介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部又は全介助等の介護が実施できる。 ○尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

指導の視点および展開例

●介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。

●サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供するうえで不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。

●例えば、「食事の介護技術」は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事を提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。

●「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な事例からの気づきを促す。

修了時の評価ポイント

① 主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。

② 要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説できる。

③ 生活の中の介護予防及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。

④ 人の記憶の構造や意欲等を支援と結び付けて概説できる。

⑤ 人体の構造や機能が列挙でき、なぜ行動が起こるのかを概説できる。

⑥ 家事援助の機能と基本原則について列挙できる。

⑦ 利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。

⑧ 装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。

⑨ 移動・移乗の意味と関連する用具・機能や様々な車いす、杖などの基本的使用方法を概説できる。
移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

⑩ 食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙できる。
食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

⑪ 入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙できる。
入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

⑫ 排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙できる。
排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

⑬ 睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙できる。
体位変換の意味と関連する用具の基本的使用方法や、機能などを概説できる。
体位変換に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

⑭ 睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
⑮ ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や多職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる。

内　　容
① こころとからだの基礎的理解 ◎介護の基本的な考え方 〇理論に基づく介護（ICF の視点に基づく生活支援、我流介護の排除）、　〇法的根拠に基づく介護 ◎介護に関するこころのしくみの基礎的理解 〇学習と記憶の基礎知識　〇感情と意欲の基礎知識　〇自己概念と生きがい 〇老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、〇こころのもち方が行動に与える影響 〇からだの状態がこころに与える影響 ◎介護に関するからだのしくみの基礎的理解 〇人体の各部の名称と動きに関する基礎知識　〇骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用　〇中枢神経系と体性神経に関する基礎知識　〇自律神経と内部器官に関する基礎知識　〇こころとからだを一体的に捉える　〇利用者の様子の普段との違いに気づく視点 ② 生活支援と住環境整備 ◎生活と家事 〇生活歴　〇自立支援　〇予防的な対応　〇主体性・能動性を引き出す 〇多様な生活習慣　〇価値観 ◎快適な居住環境整備と介護 ③　こころとからだのしくみと自立に向けた介護 ◎整容に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 〇身体状況に合わせた衣服の選択、着脱　〇身じたく　〇整容行動　〇洗面の意義・効果 ◎移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 〇利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法　〇利用者の自然な動きの活用、残存能力の活用・自立支援　〇重心・重力の働きの理解　〇ボディメカニクスの基本原理　〇移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）　〇移動介助（車いす・歩行器・杖等）　〇褥瘡予防 ◎食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 〇食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 〇食事をする意味　〇食事のケアに対する介護者の意識　〇低栄養の弊害　〇脱水の弊害　〇食事と姿勢　〇咀嚼・嚥下のメカニズム　〇空腹感　〇満腹感　〇好み　〇食事の環境整備（時間・場所等） 〇食事に関した福祉用具の活用と介助方法　〇口腔ケアの定義　〇誤嚥性肺炎の予防 ◎入浴と清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 〇羞恥心や遠慮への配慮　〇体調の確認　〇全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品

の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）　〇目・鼻腔・耳・爪の清潔方法　〇陰部清浄（臥床状態での方法）　〇足浴・手浴・洗髪

◎排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
〇排泄とは　〇身体面（生理面）での意味　〇心理面での意味　〇社会的な意味　〇プライド・羞恥心　〇プライバシーの確保　〇おむつは最後の手段／おむつの弊害　〇排泄障害が日常生活に及ぼす影響　〇排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連　〇一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法　〇便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ）
◎睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
〇安眠のための介護の工夫　〇環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）　〇安楽な姿勢・褥瘡予防

③　ターミナルケア
◎死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護
〇終末期ケアとは　〇高齢者の死にいたる過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）
〇臨終が近づいたときの徴候と介護　〇介護従事者の基本的態度　〇多職種間の情報共有の必要性

④　生活支援技術演習
◎専門性を生かした介護過程の展開
〇介護過程に基づく介護展開　〇介護過程の基本的理解　〇介護過程の必要性　〇介護過程の流れ
◎総合生活支援技術演習（事例による展開）
〇事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（１事例 1.5 時間程度で上のサイクルを実施する）
〇事例は後例（片まひ、認知症、要支援２程度、座位保持不可）から２事例を選択して実施

シラバス　（介護職員初任者研修）

振り返り

目 的	○研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行う。就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。

指導の視点および展開例

●在宅、施設のいずれの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習（身だしなみ、言葉遣いなど）を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。

●研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させた上で、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。

●修了後も継続的に学習することを前提に、介護職員が身に付けるべき知識や技術の体系を確認し、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。

●最新知識の付与と、次のステップ（職場環境への早期適応等）へ向けての課題を受講者が認識できるよう促す。

●介護職員の仕事内容や働く現場、事業所等における研修の実例等について、具体的なイメージを持たせるような教材の工夫をし理解を促す。　（視聴覚教材、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等）

●根拠に基づく介護を理解する為、この研修で学んだ介護過程を再確認する。

修了時の評価ポイント

修了評価は無し

内　　容

① 振り返り

◎事業所などにおけるＯＪＴ、Ｏｆｆ-ＪＴ

・介護の理解と現任者研修　・介護現場で求められるＯＪＴ

・介護職のキャリアにつながるＯＪＴ　・ＯＪＴ、Ｏｆｆ-ＪＴの実際

② 就業への備えと研修修了後における継続的な研修

・継続的に学ぶべきこと　・研修修了後における継続的な研修について

・具体的にイメージできるような事業所等における実例（ＯＪＴ、Off－ＪＴ）を紹介